寛永期の文化

寛永文化とは、寛永期（1624～43 年）前後に桃山文化を受け継ぎつつ新しい傾向が見られたことに由来する。例えば、日光東照宮のような権現造からは、桃山文化の絢爛豪華な趣を感じ取れる。また一方で、江戸時代を通じて発展する儒教的な文化や、元禄文化に発展する琳派の先駆けなど、新しい傾向も見られる。

○学問と文芸

●朱子学の受容

鎌倉時代、儒学の一体系で朱熹（しゅき）（朱子）に構築された朱子学が、日本へ伝来した。

→朱子学は君臣（くんしん）・父子（ふし）の別をわきまえ、礼節・上下秩序を重んじる学問である。

⇒教えのなかで、特に(1)＿＿＿＿＿＿＿＿は後醍醐天皇に影響を与えた。

◇（1）…君臣の間には不変の秩序があり、これは守られるべきとする考え

↓

室町時代、(2)＿＿＿＿＿＿＿は肥後の菊池氏・薩摩の島津氏に招かれて朱子学を講じ、

(3)＿＿＿＿＿＿＿は土佐で朱子学を講じて(4)＿＿＿＿＿＿が確立した南学の基礎を築いた。

◇（2）…(5)＿＿＿＿＿＿＿の祖で、薩摩で朱熹（しゅき）の『大学章句』を刊行

↓

安土・桃山時代から江戸時代初頭、禅僧であった(6)＿＿＿＿＿＿＿が、

朱子学の教育に努めた。

図１　藤原惺窩

→江戸幕府・諸藩は、現状の秩序維持を目的に朱子学の受容を決めた。

→（6）に推挙されたことで、その門人(7)＿＿＿＿＿＿は徳川家康に用いられ、

さらに秀忠・家光・家綱と４代の侍講（じこう）を務めた。

→（7）は幕府の命で、子の鵞峰（がほう）とともに歴史書『(8)＿＿＿＿＿＿＿』を完成させた。

⇒（7）の子孫は(9)＿＿＿＿＿と呼ばれ、代々儒者として幕府に仕えた。

図２　林羅山

●朱子学の受容の問題

朱子学は上下秩序を重んじる学問である。

→大義名分論に厳密に従えば、幕府が朝廷を差し置いて実権を握る状態は本来否定される。

⇒江戸幕府はこの問題を棚に上げて朱子学を受容した。

↓

江戸時代を通して朱子学の研究が深まると、この問題が表出した。

⇒幕末、朱子学を基盤に天皇家を尊ぶ思想「尊王（そんのう）論」が強まり、倒幕運動へ発展した。

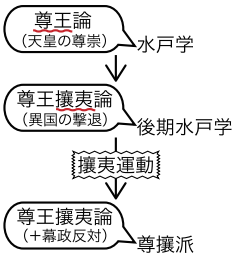

図３　思想の展開

●文芸の発展

＜俳諧＞

京都の(10)＿＿＿＿＿＿＿が、連歌から独立した俳諧（俳諧連歌）を指導した。

⇒(10) の俳諧の一派は、(11)＿＿＿＿派と呼ばれる。

◇俳諧…連歌から用語の制限を取り払い、滑稽な要素を加えたもの

＜仮名草子＞

教訓・道徳的な話を題材とした仮名書きの小説(12)＿＿＿＿＿＿＿が成立した。

図４　松永貞徳

○ 建築と美術作品

●建築

＜権現造＞

豪華な装飾彫刻を施した、先祖の霊を祀(まつ)る建物霊廟(れいびょう)建築が流行し、桃山文化の継承が見られる。

→霊廟建築の代表的な建築様式は(13)＿＿＿＿＿＿であった。

⇒(13) の代表例は、徳川家康を祀る霊廟(れいびょう)建築(14)＿＿＿＿＿＿＿＿である。

◇(14) …参詣のため、幕府が直轄する日光道中で江戸と連絡

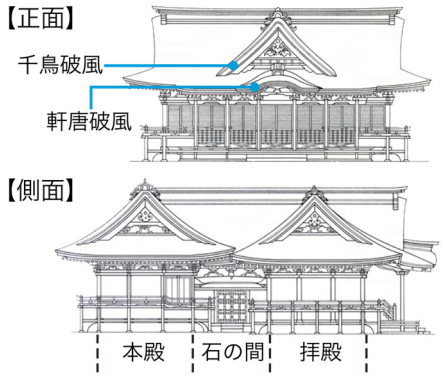

図５　権現造

＜数寄屋造＞

書院造に茶室の趣向を加えた建築様式(15)＿＿＿＿＿＿＿＿が確立された。

⇒(15) の代表例は、京都の(16)＿＿＿＿＿＿である。

図６　日光東照宮

図７　桂離宮（右：屋内）

●絵画

＜狩野派＞

狩野派から(17)＿＿＿＿＿＿＿＿が幕府の(18)＿＿＿＿＿＿＿＿となり、代表作に『大徳寺方丈襖(ほうじょうふすま)絵』がある。

⇒(17) の子孫は様式の踏襲に努めたため、画風は創意を欠いた。

↓

(17) の門人で、後に破門された(19)＿＿＿＿＿＿＿＿は、庶民を題材にし、代表作に『(20)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿』を残した。

図８　夕顔棚納涼図屏風

＜謎の絵師と絵画の新様式＞

(21)＿＿＿＿＿＿＿＿は、土佐派の画法をもとに絵画の新様式を生み、元禄文化で発展した絵画様式琳派(りんぱ)の創始者とされる。

⇒(21) の代表作は、『(22)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿』である。

図９　風神雷神図屏風

●工芸

＜多才な文化人＞

本阿弥光悦(ほんあみこうえつ)は書道・陶芸・蒔絵(まきえ)で優れた作品を残した。

⇒光悦の代表作は、『舟橋蒔絵硯箱(すずりばこ)』である。

図 10　舟橋蒔絵硯箱

＜磁器＞

文禄・慶長の役で諸大名によって連れてこられた朝鮮人陶工により、朝鮮式の焼物(やきもの)技術（登窯(のぼりがま)・絵付(えつけ)）が伝わった。

→日本初の磁器である肥前の(23)＿＿＿＿＿＿を始め、九州・中国地方で磁器が生産された。

⇒有田の陶工(24)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿は、上絵付(うわえつけ)の技法で(25)＿＿＿＿＿を完成させた。

図 11　柿右衛門の作品